

都市構造可視化ツールの活用事例 ～県内市町勉強会にて～



島根県土木部都市計画課

i-都市交流会議2020

1

1.市町村等への可視化ツールの紹介

- 今後の都市計画は、急速な人口減少社会に向けて、どのように対応していくかが課題。
- 今後のまちづくりにおける課題を認識してもらうため、各市町で勉強会を開催(5市町)。あわせて立地適正化計画の策定をPR。
- 都市構造可視化サイトのデータを活用し説明を実施したところ、参加者からは視覚的にわかりやすいと好評を得た。

日時	場所
R1.6	雲南市
R1.6	益田市
R1.7	都市計画実務研修
R1.7	出雲市
R1.8	川本町
R1.9	安来市
R1.9	浜田県土整備事務所



雲南市への紹介状況



都市計画実務研修での紹介状況

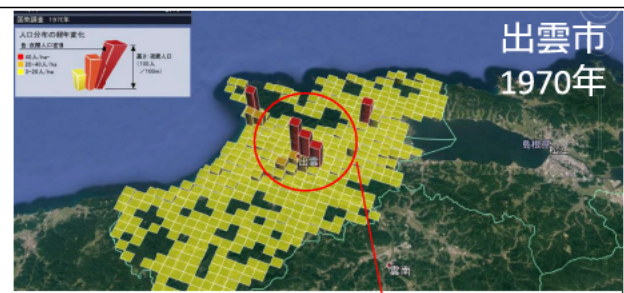
2

2.勉強会で紹介したデータの例

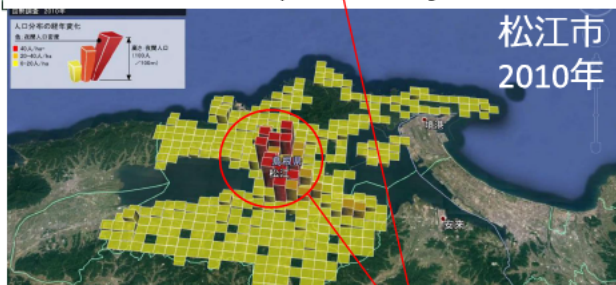
松江市(線引有)と出雲市(非線引き)の夜間人口の経年変化



補注：都市構造可視化計画、地図は©2018 ZENRIN、Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO、Google Earthを使用

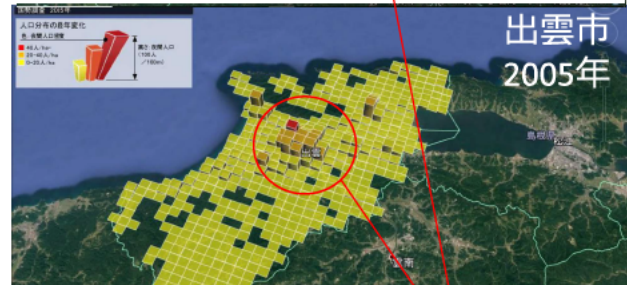


補注：都市構造可視化計画、地図は©2018 ZENRIN、Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO、Google Earthを使用



補注：都市構造可視化計画、地図は©2018 ZENRIN、Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO、Google Earthを使用

線引きにより人口密度の高い
エリアを維持している

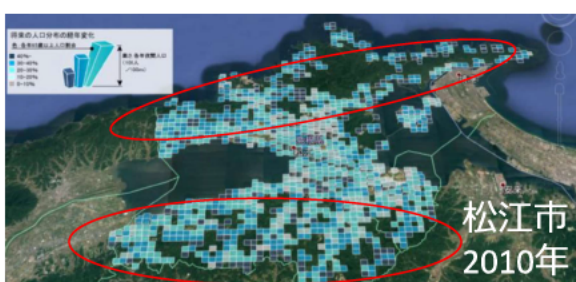


補注：都市構造可視化計画、地図は©2018 ZENRIN、Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO、Google Earthを使用

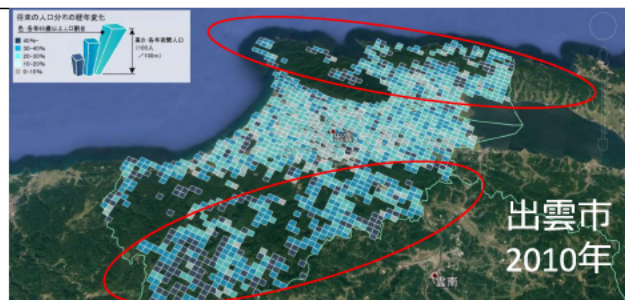
スプロール化が進展している

3.勉強会で紹介したデータの例 2

松江市と出雲市の将来人口分布の予測



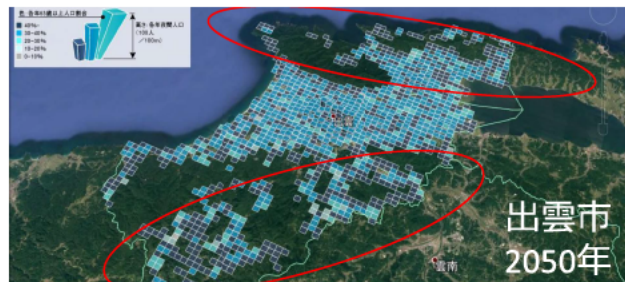
補注：都市構造可視化計画、地図はData SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO、©2018 ZENRIN、Google Earthを使用



補注：都市構造可視化計画、地図は©2018 ZENRIN、Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO、Google Earthを使用



補注：都市構造可視化計画、地図はData SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO、©2018 ZENRIN、Google Earthを使用



補注：都市構造可視化計画、地図は©2018 ZENRIN、Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO、Google Earthを使用

両市ともに縁辺部の高齢化が顕著であることが視覚的に見て取れる。

4. しまね郷づくり応援サイト（人口推計）

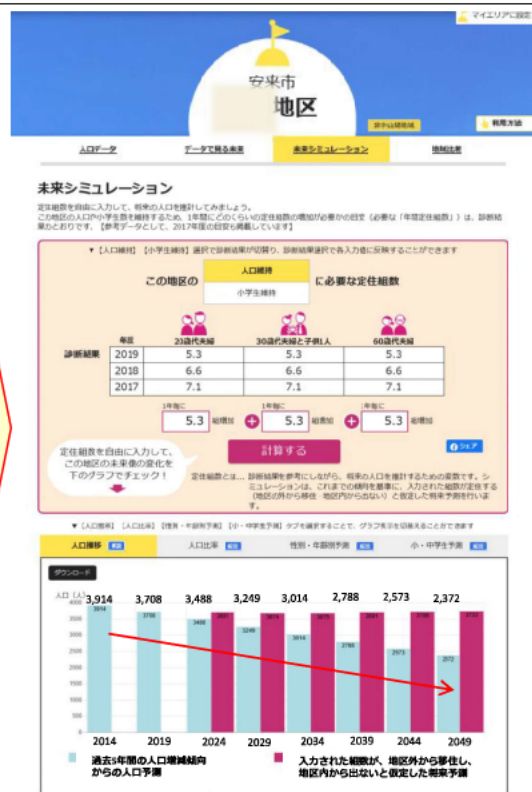
人口推移の予測状況を島根県のサイトを併せて利用して紹介



(<https://satodukuri.pref.shimane.lg.jp/www/index.html>)

- ・島根県安来市のある地区では、今後30年間で人口が36%減少(3,708人⇒2,372人) 予想（社人研推計による）
- ・当サイトでは、人口維持に必要な定住組数等をシミュレーション可能。
- ・予測結果では、本地区での現在人口維持のためには各世代5.3組/年の移住人口の取り込みが必要。

i-都市交流会議2020

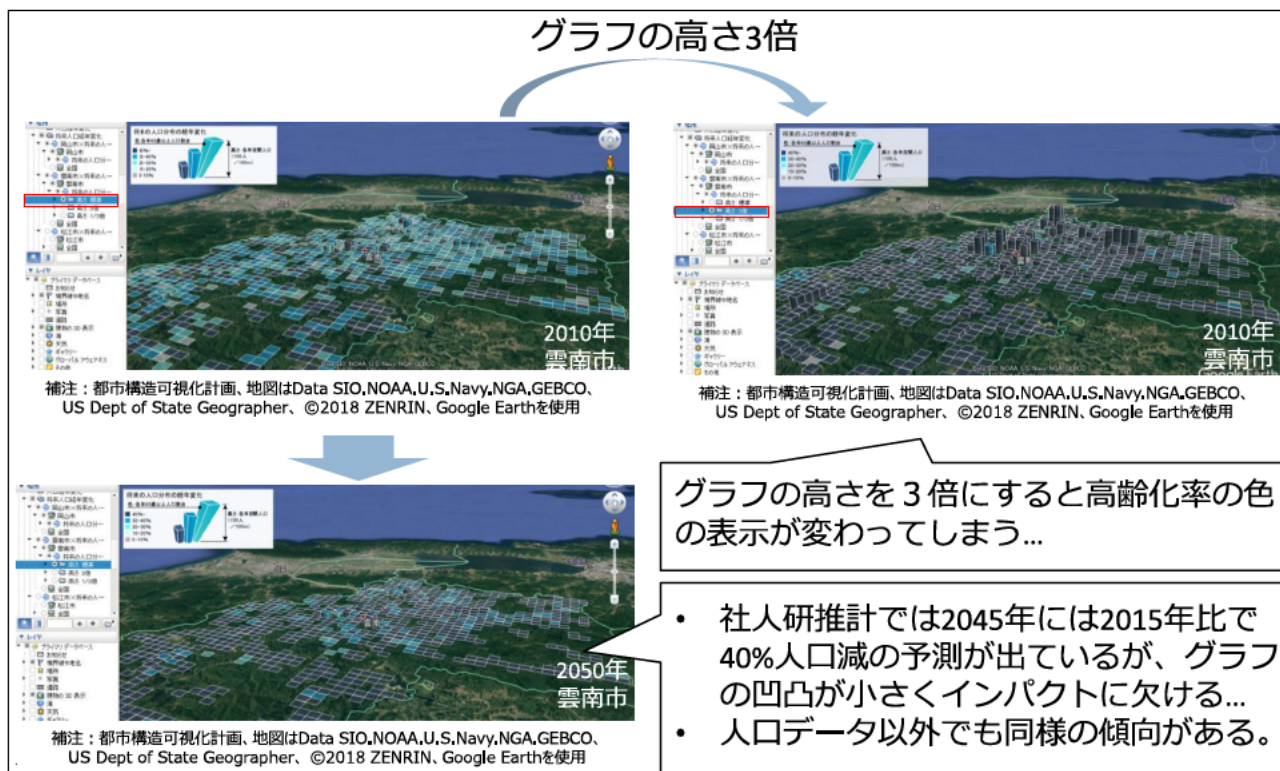


人口推移(2013⇒2048)

5

5. 可視化ツールを使用して感じたこと

中山間地域ではグラフの凹凸が小さく視覚的インパクト欠ける



i-都市交流会議2020

6

6. 活用に向けた今後の課題

（肯定的意見）

- 可視化することで、理解度が格段に上がる。
- 庁内・住民説明用に利用したい。

（今後の要望）

- 職員のパソコン上で利用できないため、普及については障害あり。またネット環境が悪く外部環境で使いづらい。
- 島根県で利用できそうなデータが少なく、考察できる内容は人口推計くらい。
- メッシュを細かくすれば、利用機会は増えそう。
- 自動車関係のデータや防災関係のデータ（浸水区域、土砂災害警戒区域等）が追加できると活用範囲が広がる。

島根県土木部都市計画課

都市の紹介

